

# いなづま

題字 小寺 寛一

発行所 函館地方電気工事協同組合  
 編集部 務部  
 住所 函館市日乃出町7番22号  
 印刷所 有限会社 島山印刷



松前藩屋敷

## 永年勤続者 表彰式 新年宴会

平成三年度永年勤続者表彰式ならびに平成四年度新年会が、一月二十八日ホテル函館ロイヤルで挙行され、来賓・被表彰者・組合員・事務局職員等約百六十余名が出席した。

定刻午後五時三十分、関係物故者に対して黙禱を捧げたあと、入院加療中のため欠席の大倉理事長に代わり、細川正明副理事長があいさつに立ち『去年は湾岸戦争、証券不祥事やバブル経済崩壊など内外ともに激変の一年であった。ことしは景気後退が叫ばれ、苦難に満ちた年を覚悟しなければならぬ。また、永年勤続者の二十二人には地道な努力で業務に励まれたことを高く評価したい。これからも決意をあらたに、栄光の道を歩み、企業ならびに業界の発展に寄与していただきたい』と述べた。

このあと、勤続三十年以上の松永宏幸さん（共栄電気工業）ら二十二名、永年勤続者一人一人に細川副理事長から表彰状と記念品を贈り、永年の労をねぎらった。続いて、来賓の木戸浦隆一函館市長（野澤義収入役が代理）と北海道電力（株）黒田正夫函館支店長のお二人より祝辞を頂戴した。

これにこたえ、勤続三十年以上の貴田秀雄さん（樺電工業）が『受賞は、ひとえに事業主や諸先輩の指導のお陰であり、今後も心新たに職務に精励していきたい』と謝辞を述べた。

吉田副理事長の首頭で祝宴に入り、坂本事務局長の司会によってカラオケの余興も繰りひろげられ、和気

平成三年度永年勤続者表彰名簿  
(敬称略)

勤続 30 年以上 3 名		事業 所名		氏 名	
		共栄電気工業(株)	松永宏幸		
		三興電機(株)	渋谷薫		
		樺電工業(株)	貴田秀雄		
勤続 25 年以上 1 名		青函電機(株)		関本務	
勤続 15 年以上 1 名		函館拓北電業(株)		牧野秀吾	
勤続 10 年以上 17 名		(有)古海電気商会		近江谷一男	
		共栄電気工業(株)		赤石孝志	
		同 右		小笠原強	
		(有)岩越電機商会		角谷恵智子	
		藤電気工事(株)		金崎留造	
		協同電気通信(株)		渋谷富夫	
		同 右		佐藤善博	
		同 右		西谷見	
		(株)松山電気工業		秋山義彦	
		(株)三興電機		奈良悦郎	
		(株)三立電気		杉田周	
		同 右		館山正司	
		函館拓北電業(株)		鈴木雅博	
		同 右		川村秀雄	
		同 右		本宿直行	
		同 右		佐藤秀博	
		同 右		梅岡真美子	

あいあいの裡に懇親会の一時を過ごし、最後は北海道電気資材卸業組合の鳥谷晃函館支部長により関係者一同の益々の繁栄と健康を祈念しての乾杯で無事終宴となった。



役員会だより

第七回役員会 三・一二・二〇

一、慶弔報告

- (1) 事務局越田職員ご尊父逝去
  - (2) (株)東福電機工業代表者ご義母逝去
  - (3) マルカタ道南電機工業(有)代表者ご母堂逝去
- 二、貸付報告  
五社 二五〇万円

- 三、各支部報告並提案事項  
各支部それぞれ支部会議を開催した。
- 四、総務委員会事項

- (1) 事務局職員冬期手当の支給報告
- (2) 事務局職員給与改定について
- (3) 平成三年度永年勤続者表彰式兼新年会について
- (4) 年末年始の業務取扱いについて

- 五、技術委員会事項
- (1) 計測器受払業務の実績について
- (2) 先方電気工事不良件数について
- (3) 引込線工事士認定講習受講者数ならびに認定申請者数調べについて
- (4) 認定工事従事者の認定講習ならびに認定申請について

- 六、事業委員会事項
- (1) 第三者損害賠償制度事故調査費の還付について
- (3) 全日電工連共済制度の事務費および組合運営費について
- (4) 全日電工連保守管理業務のコンクールについて

- 第八回役員会 四・二・四
- 一、慶弔報告
- (1) ユタカ電機(株)代表者ご尊父逝去
- (2) (株)青山電工代表者ご尊父逝去
- (3) 大倉理事長病氣入院見舞
- (4) 佐昭電気代表者ご母堂逝去

- 二、貸付報告  
一社 五〇万円
- 三、各支部報告並提案事項  
各支部それぞれ支部会議、新年会を開催した。
- 八雲支部北檜山ブロック

- 四、総務委員会事項
- 標準単価表を作成できないかとの提案があった。
- (1) 組合新年会の出席者数について
- (2) 永年勤続者表彰式について
- (3) 道工業組合の総代会について

- (4) 各支部総代の選出について
- (5) 組合新規加入申込みについて
- (6) 譲渡・譲受による加入申込みについて  
(有栄幸電気商会・栄幸電気商会(承認))
- (7) 定期健康診断の実施期間について
- 五、技術委員会事項
  - (1) 北電引込線工事士の認定関係者数
  - (2) 引込線工事士『申請認定』の取扱について
  - (3) 引込線・計器施工会社基準の取扱い変更について
  - (4) 講習会の実施について
  - (5) 電気安全セミナーの開催について
  - (7) 平成4年度一級電気工事施工管理技術検定試験について
  - (8) 北電々柱街路灯の取扱いについて
  - (9) 経営近代化研修会について
- 六、事業委員会事項
  - (1) 全日電工連国民年金基金加入促進について
  - (2) 大同生命団体共済制度配当金について
- 第九回役員会  
一、慶弔報告  
四・三・二六
  - (1) ㈲岡田電気商会代表者ご母堂逝去
  - (2) ㈲サントウ工業代表者ご母堂逝去
- 二、貸付報告  
八社 三六〇万円
- 三、各支部報告並提案事項  
各支部それぞれ支部会議を開催、支部長、総代を選出した。
- 四、総務委員会事項
  - (1) 新年会・永年勤続者表彰式の収支決算について
  - (2) 道工業組合平成四年度通常総代会の報告
  - (3) 北海道電気工事業政治連盟について
  - (4) 経営近代化研修会の報告
  - (5) 定期健康診断の実施
- 平成四年度通常総代会について

- (7) 平成三年度会計収支決算見込みについて
- (8) 組合新加入申込について
- (9) 組合脱退の申込について
- (10) 電気安全表彰申込について
- 五、技術委員会事項
  - (1) 北電引込線工事士認定試験結果について
  - (2) 北電管配エンジニアリング㈱の新規事業について
  - (3) 電気工事施工管理技術士制度について
- 六、事業委員会事項
  - (1) 大同生命団体共済制度保険料について
  - (2) 国民年金基金の加入拡大について
  - (3) 厚生年金基金の加入拡大について
  - (4) 平成四年度における第三者損害賠償制度の取扱いについて

**組 合 行 事**

- 12月3日 正副理事長会議
- 6日 年末特別融資委員会
- 6日 西支部会議
- 全日 函館地区団体事務長会運営委員会に坂本事務局長出席
- 12日 北電引込線工事士認定委員会  
札電協)
- 19日 道工業組合役員会に吉田福理事長出席(於札電協)
- 20日 第七回役員会
- 27日 いなづま編集会議
- 全日 御用仕舞
- 1月6日 御用始
- 16日 赤川支部会議
- 17日 北支部会議
- 18日 中渡島支部会議兼新年会(於鱗旅館)
- 23日 道工業組合役員会に吉田副理事長出席(於

- 2月3日 青年部役員会
- 4日 第八回役員会
- 7日 函館地区団体事務長会研修会に坂本事務局長出席
- 8日 八雲支部八雲ブロック会議
- 13日 西支部会議
- 全日 赤川支部会議兼新年会(於松源)
- 14日 東支部会議
- 18日 中支部会議
- 19日 八雲支部北檜山ブロック会議
- 21日 〃 森ブロック会議
- 全日 中渡島支部会議
- 25日 道工業組合役員会に吉田副理事長出席
- 全日 道工業組合総代会に細川副理事長ほか理事九名出席(於厚生年金会館)
- 27日 道南木造家屋建築工事等安全対策委員会に佐々木(三)理事出席(於建設会館)
- 28日 引込線工事士認定委員会
- 3月4日 引込線工事士認定講習・試験(詳細別掲)
- 13日 函館地区団体事務長会研修会に坂本事務局長出席
- 16日 江差支部会議
- 18日 赤川支部会議
- 19日 北支部会議兼懇親会
- 全日 中渡島支部
- 全日 経営近代化研修会(於組合会議室)

札幌第一ホテル)

江差支部会議兼新年会(於湯川さかえ)

27日 副理事長会議

道南木造家屋建築工事等安全対策委員会に

佐々木(三)理事出席(於南禅)

28日 永年勤続者表彰式・新年会(詳細別掲)

31日 函館市人材確保推進協議会幹事会に坂本事務局長出席(於函館市会議室)

25日 渡島支庁時短、人材育成懇談会に坂本事務局長出席（於国際ホテル）  
 26日 第九回役員会

### 北海道電気工業組合自主認定による

## ” 引込線工事士制度 “

## 制定される。

27日 東支部会議  
 全日 道工業組合全道事務局長会議に大倉理事長、坂本事務局長出席（於札幌協）

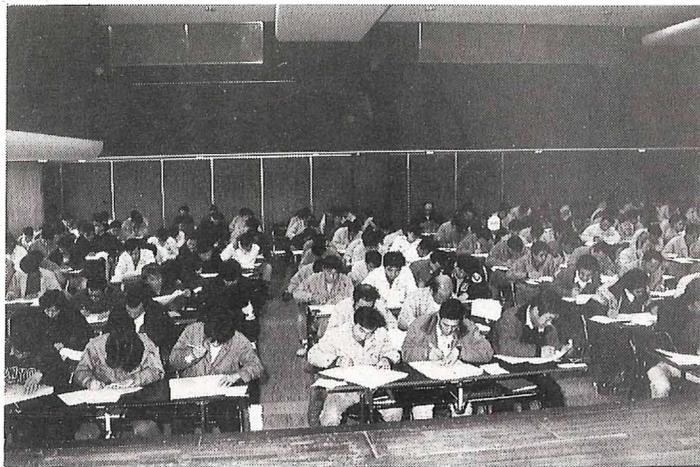
北海道電気工業組合で、鋭意検討を重ねてきた引込線工事士認定制度が正式に発足し、その第一回の認定試験が去る三月四日、全道十一協組において実施された。

この制度は、北海道電力の低圧の引込線および計測器工事に従事する作業員の技能ならびに品質向上への意欲を増進させるとともに、教育を適切に推進し、もって作業員の技能習熟と作業の安全を確保することを目的としており、その認定要領は次のとおりである。

- 一、外線工事士三級以上の資格を有する者
- 二、電気工事士第二種以上の資格を有し、引込線工事ならびに計器工事について三年以上の経験があるかつ年令四十才以上で認定講習を受講した者
- 三、引込線工事ならびに計器工事について連続して一年以上の経験があり、年令満十八才以上でかつ認定試験に合格した者

三月四日実施したのは右の三に該当する者を対象に行なわれたもので、当組合関係の申請数は二百三十一名であったが、当日受講したのは二百一十一名であった。拓銀ビル八階大ホールを会場とし、冒頭、引込線工事士函館地区認定委員会委員長の大倉理事長があいさつ、次いで副委員長の福地北電配電課長が注意事項を述べ、午前十時から二時間にわたり電気理論（大鎌委員）、工事基準（酒井委員）、作業手順（大西委員）、安全管理（青木委員）の順で講習が行なわれた。

午後一時から愈々試験である。前述の科目については引込線二十五問、計測器十問計三十五問の試験問題で制限時間は一時間三十分であったが、早い人は二十分位で提出され、全員が提出を了えたのは一時間位を経過



したのであろうか。早速答案用紙を取纏めて組合事務所へ持ち帰り、関係者一同で採点をした。

試験の可否は、本部認定委員会ではなされたが、当初の合格基準点の七十点を六十五点に下げて決定された。当組合関係では二百七名が合格、四名が残念ながら不合格となった。

本試験にあたり関係者のご協力に厚くお礼申し上げます。

#### ◎引込線工事士函館地区委員（敬称略）

- 参 与 浅見 護（北電函館支店営業部長）
- 委員長 大倉伸夫（組合理事長）
- 副委員長 福地 傑（北電函館支店営業部配電課長）
- ” 佐藤征次（組合副理事長）
- 委 員 青木義明（北電函館支店営業部配電課 主査）
- ” 石屋幸一（北電函館支店営業部配電課 副長）
- 事務局 大西 博（北電函館支店営業部配電課 主任）
- ” 坂本豊一（組合事務局長）

### 経営近代化研修会

テーマ 人手不足時代の人材が企業を支える  
 主催 北海道電気工業組合  
 函館地方電気工事協同組合  
 協賛 松下電工（株）北海道営業所  
 講師 松下電工（株）経営相談室 仲野邦久氏  
 恒例の標題研修会が、三月十九日（木）正午より組合大会議室において開催され、二十七名が熱心に受講した。



# 中国文化のルーツ 日本文化のルーツ(五)

平沼智子

## 味噌

広辞苑を開くと『味噌』は朝鮮語の『密祖』から来た語と出ている。調味料の一種で大豆、米、麦などを蒸してつきくだけ麴と塩をまぜて桶に入れ、発酵させて製したものとして出ている。

さて、郭伯南氏のいうルーツはどうか。

酒と味噌は古人が微生物を巧みに利用して創り出した美味である。古来、酒づくりも味噌づくりにも長じていたのは東方の人だけであり、長い時間をかけて味噌文化を創り上げた。

中国では味噌の事を『醬』と言う。今日では『醬』と言えば豆、麦、米、粉類を発酵させてつくった調味料、大豆味噌、甘味噌を指すが、同時に魚、肉、野菜果物などをつきつぶして創った食品もさす。キャビア(チョウザメの卵の塩漬)リンゴジャム等がそれにあたる。

しかし、秦のころは『醬』と言えば各種の調味料の総称だった。又『醬醢』とも言った。がこれも調味料一般を指し『醢』は『なます』の事である。

『周』の記録に『熟食を献ずれば醬醢を添えて出す』とあり『醬醢』は調味料の総称である。

『醬』は『將』と同じ読み方です。なぜだろうか。それは古代の各調味料塩、梅、ひしを等の中で『醬』はいつも主導的地位を占めていたからだといわれている。例えば鮪(日本の刺身にあたる)を食べる時には『芥醬』という芥子味噌がなくてはならない。(日本の鯉のあらい)又、熊の手の煮物には芍薬(花の芍薬

の)の入った味噌がなくてはならない。現在の中国では『北京ダック』(中国原産のアヒル)を食べる時には必ずネギと『甜麵醬』と呼ばれている豆の粉で創った甘味噌が欠かせないのである。私も北京でこの料理を食べたが、ネギは日本の長ネギと同じで五センチ位のタテに細く切り『甜麵醬』は日本の関西で使用されている『八丁みそ』の甘くした感じのものであった。故人は『醬』は百味を統帥すると言っている故に『醬』の文字を使用したのである。

秦のころは味噌の種類が多く百を数える程だったといわれている。野菜、果物でつくった味噌のほか、タニシ、カラス貝、雁、兎、鹿、ノロなどの肉でつくった味噌、つまり魚味噌、肉味噌があった。

伝説によれば『夏』(紀元前で中国最古の王朝)の国に料理の名人がいて、夏が減びそうなので『商』の国王に白鳥の煮物とイカで作った味噌を献上した。そして調理の術を借りて治国の道にたとえ商王を説得した。その結果『商』の国の宰相に任命されたという話が文献に見える最も古い魚味噌の記録である。

魚味噌と肉味噌は原始時代から作られていたのではないかと推察するのだが、記載されたものではなく、考古学的には野菜の漬物用のかめに似た陶器(双領缶)が発見されている。このカメの口に一つの工夫がしてあり、水を入れて碗状(碗はウルシ塗りのもの)のふたをかぶせると密封出来る。それは肉味噌、魚味噌、粕漬をつくるには最適である。この双領缶が味噌作りの道具だと確認出来れば、魚味噌は約四千年の

## 組合員の異動

(新)

- 一、(有)栄幸電気商会(中渡島支部) 栄幸電気商会
- 二、(株)テクセル(赤川支部) 北海道電設工事(株) 函館支社
- 一、(株)本電気工業(赤川支部) 函館支社

函館市美原三丁目三二一六 函館市昭和三丁目  
電話4716801 四一三三

## 組合員の消息

- 一、一月上旬 大倉理事長病氣入院
- 二、二月中旬 林電工代表林勝義殿病氣入院(三月下旬退院)

- 一、一月一六日 ユタカ電機(株)代表取締役伊東研一殿ご尊父伊東幾郎殿ご逝去
- 一、一月二八日 (株)青山電工代表取締役青山忠殿ご尊父青山正次殿ご逝去
- 一、一月三〇日 佐昭電気代表者佐々木昭治殿ご母堂佐々木ミヨ殿ご逝去
- 一、二月一〇日 (有)岡田電気商会代表取締役岡田忠男殿ご母堂岡田スワ殿ご逝去
- 一、三月一五日 (株)サントウ工業代表取締役塩谷光雄殿ご母堂塩谷サワ殿ご逝去
- 一、四月一六日 相互電気商会代表者有本達男殿ご逝去

歴史がある事になる。

中国は大豆の国であり、東北地方には今も野生の大豆がある。秦の始皇帝（紀元前二二一）のころはまだ豆味噌がなかったのに、漢の武帝（紀元前一四一）の時代になると味噌作りが盛んになり、酒作りと肩をならべる位になったという。『史記・貨殖列伝』には交通の便利な大都會では酒・味噌を扱う商人の裕福さは大富豪に比すべきほどであると記録されている。

史記に出てくる味噌はどんなものか中味はわからないが、同じ時代に『意就扁』という本があり、その中に『塩一鼓醢醢醬』という文字がある。唐代の学者『顔師古』の解説によれば、骨からけずり取った肉で作った味噌を『醢醢』、骨付きのままの肉で作ったものを『醬肉』、大豆の粉でつくったものを『醬』ということになっている。

一九七三年に湖南省長沙馬王堆の漢墓の発掘の時（婦人の遺体そのまま出土して世界の話題となった遺跡）の副葬品の中から大量の竹筒が出土した。この竹筒に食物の名称と埋葬した数量が書かれてあるもので、この竹筒を『前漢第一食筒』と呼ばれている。この竹筒の中に『肉醬』『馬醬』とあるほかに、単独で『醬』の名もある。そして『顔師古』の説によって考えると『醬』を解釈して『麵醬』即ち豆味噌であろうと思われる。それから考えると豆味噌作りは紀元前一九三年以前にさかのぼる事が出来る。

豆味噌は後漢（紀元二二五）になると作り方が『四民月令』に出て来る。『正月に諸醬をつくる。上旬に豆を炒り中旬にこれを煮る。豆をつぶして末都を作る』とある。豆を炒って煮、発酵させて作った味噌は香りが高く味にこくがある。これは豆味噌についての最も古い記述である。『諸醬』とは多くの味噌という事で、この頃になるといろいろな味噌が出来ていたのだろう。『末都』は大豆を粉末にしてつくった味噌で『豆味噌』である。中国の地方の田舎では現在でも黒豆を炒って粉にひき『豆末都』をつくる場所がある。色が黒いので『黒醬』といわれ直接食用とはせず調味

料としてのみ使用されている。

『清醬』といわれるのは大豆の粉で作った醬油状のものである。今でも醬油のことを『清醬』と呼んでいる地方がある。

唐代、豆味噌は鑑真和上によって日本に伝えられた。奈良時代（七五三年）でそれより以来味噌は宮廷の御用から武士階級にひろまり、そして庶民の食品へと現在のような味噌文化が進展した。

醬油は日本独特のもので中国で言うところの『醬汁』とは違う。中国は『鼓汁』『鼓清』或いは『鼓油』などといわれ『前漢第一食筒』に出てくる『鼓』が一番古い記録で、同時に出土した陶器に入っていた『豆鼓』は地下に二千二百年眠っていたが、何とか見分けがつくとの事である。

『豆鼓』も『豆味噌』と同じくらい驚くべき早さで発展した。秦の時代は『鼓』の文字は見あたらない。しかし、前漢中期になると『豆鼓』づくりが盛んになり、酒・味噌と同様に発達している。文献には『肉をまず糖蜜、鼓汁につける』とある。現在日本の焼鳥を焼く時のタレ、砂糖その他の調味料を加えた醬油をぬって焼くのを考えれば、古人が鼓汁をつけるのと似ている。およそ古人が『鼓汁』を利用したものは現在の醬油を使用するものと同じではなかったかと思われる。後漢の末に『清醬』という名があったが、これは味噌からにじみ出て上にたまった澄んだ汁にすぎないの

で醬油とは言えない。唐・宋の時代に醬油は『豆醬汁』又は『豆醬清』或いは『香醬清』と呼ばれた。これは醬油は味噌からはなれた液状である事を証明している。明・清時代になって『豆油』『豆醬油』と呼ばれ製造から製品まで味噌と異なっている。近代醬油は豆味噌よりも重要な位置を占め、中華料理になくてはならないものとなり、中華料理の広まるにつれて味噌、醬油もアジアから欧米に伝わり年毎にひろがっている。

最後に味噌汁についてだが中国では全く食しない。これは日本独特の味噌文化である。日本では鎌倉時代（一一八五―一三三三）位から味噌汁を食しはじめたのではないだろうかと思われる。『清』の康熙帝年間に編集された『佩文韻府・紅醬』という本の中に『能營野飯羹紅醬渡水何辞数訪尋』という詩があり『羹紅醬』と出ている。これは赤味噌で作った味噌汁のことである。中国には古来より多くの味噌があるが『紅醬』というのではない。日本では大豆を蒸して作ったものを赤味噌と称している。

この詩は宋代の高僧『惠洪』の作で、円澄大師（日本人）の家の壁に書いたものである。鑑真和上が日本に味噌を伝え、それから四百年あまり経って円澄大師が日本から赤味噌を中国に伝えた。日本と中国との味噌を通しての文化の交流があったことを深く感じる。

## 豊かな老後のため

### ”国民年金基金(職能型)

に加入しましょう

# 学卒求人季節です！

平成5年3月の新規学校卒業者（中学・高校）にかかる求人は、6月20日から受理を開始いたします。地元での就職希望者が多い反面、企業の求人申込みが少なく、優秀な人材が流出することになりかねないので、採用計画のある企業は早めに求人申込みされるようお願いいたします。

学校では、安定所で受理されていない求人票に生徒の推薦は行いません。

まず求人は安定所に申し込みしていただき受理された控えを学校に提出することとなりますのでお間違えなくお願いいたします。

選考開始等は次のとおりとなっております。

1 新規高等学校卒業者にかかる 推薦及び選考開始期日等	
① 求人受理開始	6月20日
② 求人者に対する求人票(控え)返戻	7月1日以降
③ 安定所で確認した求人票(控え)を学校で受理する開始	7月1日以降
④ 安定所で受理した求人の学校への提示	7月1日以降
⑤ 他安定所への求人連絡開始	7月1日以降
⑥ 推薦開始	9月5日以降
⑦ 選考開始	9月16日以降
⑧ 採用内定開始	選考開始と同日以降

2 新規中学校卒業者にかかる 推薦及び選考開始期日等	
① 求人受理開始	6月20日
② 求人者に対する求人票控の交付	7月1日以降
③ 他安定所への求人連絡	7月1日以降
④ 推薦・選考開始	12月1日
⑤ 採用内定開始	選考開始と同日以降

※参考 大学・短期大学及び高等専門学校卒業予定者の採用選考開始期日等

① 求人票の受理	6月1日以降
② 求人票の公示開始	7月1日
③ 採用選考開始	8月1日前後
④ 採用内定開始	10月1日

なお詳細につきましては、

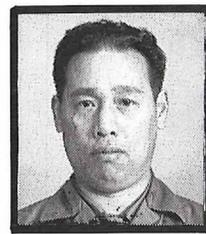
ハローワーク函館(函館公共職業安定所)

学卒コーナー

(☎ 0138-26-0735 内線419)

へおたずねください。

## 追悼記



相互電気商会代表者有本達男氏は、去る四月十六日函館市の病院で定期的な検査を受け、江差へ車で帰る途中、急に身体の不調を訴え直ちに救急車で近くの病院へ運ばれたが、急性心不全で五十八年の生涯を終えられました。

有本氏は、昭和二十六年三月追分の町の江差町立中学校を卒業し、翌二十七年二月地元の山本電気商会に入社、電気工事業界の一人としての道を歩きはじめました。

その後、昭和電気工事(株)江差出張所、北海綜合電機(株)江差出張所に務め、昭和三十七年十一月に相互電気商会に入社、以来主任電気工事士として責任ある職務を全うして参りました。

昭和四十八年三月、同社の経営者松原久作氏が病気で退社、同氏の強い要望によりその経営権を継承し、当組合員として良心的にそして優秀な技術をもって業績を伸ばし、地元の発展、電気工事業界の発展に寄与されたのであります。

昭和五十四年頃から長男の康さんが片腕となって益々躍進、開花のときを迎える矢先の氏の急逝は惜しんでなお余りあるものであります。

しかし、氏の残された業績は不滅の道しるべとなり私達を激励し、業界の一層の発展となることを信ずるものであります。

有本さん、どうか安らかに眠りください。

故人の生前の功績を偲び、謹んでご冥福をお祈りして追悼の記とします。

時代の変化にこたえる感性  
綜合販社

### 東芝E&S北海道株式会社

#### 函館支店

040 函館市大繩町二十二番十四号  
電話 四一—二二四一



快適を科学します

### 松下電工株式会社

#### 函館出張所

函館市西桔梗町五八九番地一〇七  
電話 函館 四九—一五二五

工事材料・電化製品

### 丸晃電気株式会社

函館市西桔梗町五八九—四九  
電話 四九—一三—三三

電気設備機器資材の綜合卸商社

### 大興電機株式会社

本社 函館市西桔梗町五八九—一〇七  
電話 (代) 四九—一六—二二—番  
営業所 山越郡八雲町内浦町一〇七  
電話 (〇三七六) 三—三三—六九番

電設資材・機電綜合卸

### 進和電機株式会社

040 函館市松川町三四—一三  
電話 四二—一六—二二三—

未来環境を語る・造る

### 株式会社工三ヤ

#### 函館営業所

函館市富岡町二丁目四—一七  
電話 四三—三〇—一 (代表)  
本社 札幌・営業所 釧路、苫小牧

電気工事材料  
音響通信機器  
綜合商社

### 石垣電材株式会社

#### 函館営業所

本社 060 札幌市中央区北六条西二丁目一—番地  
支店 063 苫小牧市新中野町二丁目三—番地  
函館営業所 040 函館市島町三丁目四—三番地  
(〇一三八) 五—四二—二番地

松下電工(株)代理店  
日立電線(株)特約店

### 北進商事株式会社

函館市市場町十九番二十二号  
電話 五五—二二—〇五  
FAX 五五—三—七四—